事　　項	短日処理した一季成り性いちご品種の花芽分化と夏秋期以降の収量・品質（追加） ～「さちのか」の越年２芽苗は良品収量が多い～		
ね　ら　い	平成17年度指導参考資料「短日処理した一季成り性いちご品種の花芽分化と夏秋期以降の収量・品質」で、越年苗を短日処理することによって花芽分化を促し、夏以降どりができることを参考に供した。その後、この栽培における適品種と定植苗の条件等が明らかになったので、追加して参考に供する。		
指導参考内容	1　夏秋期から冬春期までの収量・品質等から、越年苗を利用した周年栽培における適品種は、「さちのか」である。 2　本栽培法における夏秋期の商品果収量は、２芽苗が１芽苗より多い。この時の「さちのか」の平均一果重は、業務用として必要とされる９～10g前後で、定植苗の芽数による差は認められない。また、糖度、酸度、硬度等についても定植苗の芽数による差は認められない。 3　定植時までに効率よく２芽苗が得られ、夏秋期及び冬春期に安定した収量を得るための採苗適期は９月中旬である。		
期待される効果	1　当年苗を利用した超促成栽培よりさらに早い時期から収穫ができ、一季成り性品種の端境期である夏秋期にも収穫が可能な新作型として期待できる。 2　半促成栽培と比べて作業がより周年的に平準化されるため雇用の安定化につながるとともに、粗収入の増加が見込めるので経営の安定化に寄与できる。		
利用上の注意事項	1　越年苗の採苗は12cm径ポットを使用した結果である。 2　越年苗を短日処理する場合、３月上旬頃から保温し、本葉を５～６枚抽出させておく。短日処理は４月下旬頃から８時間日長とし遮光率100%の資材を用いて行い、定植は顕微鏡を用いて花芽分化を確認してから行う。 3　不受精果や種浮き果等の高温障害を軽減するために、５月から９月にかけてハウス全体を遮光して管理する。 4　翌春まで収穫を行うため、最低気温５℃以上を確保できるように保温する。 5　冬期間の草勢を維持するため、11月から2月まで電照を行う。		
担当部署 （担当者名）	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場　栽培部 （岩瀬利己、木下貴之、西舘勝富、相坂直美）	対象地域	太平洋沿岸等の夏期冷涼地帯
発表文献等	平成17年度指導奨励事項・指導参考資料等 平成15～18年度　青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場試験成績概要集 東北農業研究第58号		

【根拠となった主要な試験結果】

表１　商品果収量と平均一果重　（平成16年　青森農研畑園試）

品　種	芽数	商品果収量（g/株）				平均一果重（g）			
		7-11月	12-3月	4-5月	合　計	7-11月	12-3月	4-5月	平均
さちのか	2	158	392	1129	1680	10.0	11.3	11.9	11.4
	1	81	450	953	1484	10.1	12.1	12.4	12.1
とちおとめ	2	118	252	735	1106	9.9	15.2	15.6	14.1
	1	81	323	599	1003	11.2	13.3	16.0	14.1
北の輝	2	183	0	390	574	9.9	-	14.0	11.3
	1	132	0	373	505	9.4	-	12.7	10.5

（注）１ 商品果は6g（夏秋期は3g）以上の形の整った果実（秀品）とこれに準ずる6g以上の果実（優品）の合計

２ 3月1日から保温育苗し、4月28日16時30分から短日処理、定植は6月4日

表２　商品果収量と平均一果重　（平成17年　青森農林総研畑園試）

採苗時期	芽数	商品果収量（g/株）				平均一果重（g）				糖度（%）	酸度（%）	糖酸比	果実硬度（g）
		8～11月	12～3月	4～6月	合　計	8～11月	12～3月	4～6月	合　計				
8月	2	107	267	930	1304	8.4	11.1	10.8	10.1	10.6	0.66	16.4	391
9月	2	122	313	1250	1685	9.2	11.9	11.7	10.9	10.7	0.67	16.2	385
10月	2	102	277	1050	1429	8.9	11.9	11.8	10.9	10.6	0.66	16.5	384
8月	1	49	259	905	1213	9.0	11.6	11.3	10.6	10.7	0.67	16.0	368
9月	1	62	261	983	1306	8.9	12.4	12.2	11.2	10.6	0.67	16.1	372
10月	1	50	284	976	1309	8.7	12.5	12.3	11.2	10.5	0.66	16.2	368

（注）１ 品種はさちのか、採苗時期は8月下旬、9月中旬、10月上旬

２ 3月1日から保温育苗し、4月28日16時30分から短日処理、定植は6月6日

表３　採苗時期別の定植時芽数構成比率

（平成17年　青森農林総研畑園試）

品　種	採苗時期	比　率（%）		
		３芽	２芽	１芽
さちのか	８月	3.7	89.6	6.7
	９月	14.3	84.9	0.8
	10月	0.0	64.1	35.9
とちおとめ	８月	0.0	74.4	25.6
	９月	5.0	93.0	2.0
	10月	0.0	27.5	72.5
北の輝	８月	22.0	78.0	0.0
	９月	10.3	74.4	15.4
	10月	0.0	14.6	85.4

（注）１ 12cm径黒丸ポリポット使用培土の窒素量は1ℓ当たり100mg

２ 冬期間は戸外に並べ置きし越冬

表４　Brix(%)　（平成16年　青森農林総研畑園試）

品　種	芽数	8月	9月	12-3月	4-5月	全期間
さちのか	2	9.8	11.0	11.6	10.7	10.8
	1	9.8	11.0	11.5	10.6	10.7
とちおとめ	2	10.4	11.6	11.9	11.0	11.2
	1	10.4	11.6	11.8	11.0	11.2
北の輝	2	9.8	11.0	10.8	10.0	10.4
	1	9.4	10.6	10.9	10.2	10.3

表５　収穫後の日持ち性

（平成16年　青森農林総研畑園試）

品　種	残存健全果比率（%）			
	１日後	２日後	３日後	４日後
さちのか	96.7	83.3	70.0	60.0
とちおとめ	76.7	56.7	26.7	6.7
北の輝	96.0	84.0	64.0	40.0

（注）平成16年8月23日に収穫後、室内常温管理